ジェンダーについて考える

長久手市立北中学校
二年　舟田　琉真

僕がジェンダー〇〇という言葉を耳にし始めたのは二年前くらいからだと思う。その一つがジェンダーレスである。ジェンダーレスとは、男女の境界をなくす、区別しないという意味合いが強い言葉だ。ジェンダーレスとは、本来自身の性をどのように認識しているかを指すこころの性が関わってくる考え方の一つとされていた。しかし、近年このジェンダーレスという言葉は、見た目や言動を通じて自分で表現する性を示す性表現も関わってくるがいねんに変化して用いられるようになりつつあるようだ。僕が考えるジェンダーレスも、まずは見た目。ファッションが一番身近にあると思う。その一つの例として挙げられるものが制服のデザイン変更である。男子は学ラン、女子はセーラー服という男女が分けられていたものからブレザーに代わり、ズ

ボンもスカートもネクタイもリボンも自由に選択できるようになった。髪型に関しても、僕の入学説明会では、髪の長い女子は縛る、男子は耳より上、だったのに対して、年子の弟の入学説明会では、髪の長い子は縛ると男女の表記がなくなったらしい。一年の差でもこのように変化していて今まさにジェンダーレスを進めている真っ只中だと感じた。

また、ジェンダーレスと似ている言葉にジェンダーフリーというものがある。これは日本では性による差別をなくすことを意味して使われている。つまり、性別の押し付けから自由になるという意味の言葉である。従来の性別における決め付けや役割分担にとらわれず、男女間のアンバランスな力関係や格差をなくそうという考え方がもとになっている。男性が育休をとったり、女性が仕事したりすることなどがそうなのだろう。僕は最近母から家事を教わっている。母が家事のひとつもできないとひとりぐらしのときに困ったり、奥さんができたときに捨てられるよ。と言わ

れたのがきっかけだ。まえまでなら、男は外で働き、女は家を守るという考えが主流だっただろう。

しかし、ジェンダーレス、ジェンダーフリーと言っても本当に全てがレス・フリーとなっているのだろうか。先に述べた制服に関しても、女子はズボンやネクタイを選んでも周りに何も言われないだろう。では男子がリボンとスカートを選んだらどうなるだろうか。周りに冷やかされ、いじめに発展するかもしれない。女性によるセクハラはあまり問題にされないのに対して、男性からのセクハラにかんしては厳しい。ジェンダーフリーと言っても、どうしても変えられない生理的特徴がある。僕の父は警察官で災害現場へ行くことがある。そこではトイレや着替えなどを外で済ますことがあるそうだ。女性にそれがでるのだろうか。このように代われないことはまだたくさんあるが、それを指摘することを差別というのは違うと思う。

僕が考えるジェンダーレス、ジェンダーフ

リーとは、ただ単に全てを区別しない・平等にするということではないと思う。ジェンダーにまつわる固定概念を無自覚のまま相手に押し付けたり心ない発言を投げかけたりせずどうしても埋められない生理的な部分で区別することを差別と捉えるのではなく認め合うことだと思う。誰もが暮らしやすい社会にするために、みんなが無意識の当たり前をとっぱらって考えたり行動したりすることが大事だと考える。